

笠岡のシンボル カブトガニを守るために！！

カブトガニ保護地区内に流れる河川の調査



つがいのカブトガニ

発表者

田中貴和子 藤川礼夢

調査・考察に至ったきっかけ

カブトガニを保護していくというテーマに対して、生息数を維持していくためには生息環境を整えることが不可欠であると考えました。

そうした中で、「保護地域内に流れ込んでいる河川の環境は、保護地域内の環境に深く関わっているのではないか」という疑問から、今回の調査・考察に至りました。

保護地区内の調査は行われているが、保護地区内に流れ込む河川の状況の調査は十分に行われていないことが分かりました。河川は私たちの生活環境に隣接していることから、人による影響も受けやすいと考えました。

河川の現状を調べ、地域の人々に発信することは、カブトガニに対するの関心を高め、より積極的な保護活動に繋がりたいと思います。

河川調査の場所

A 吉田川



B 吉田川河口



C 今立川



D 大島川



E 神島大橋北



河川調査の方法

調査内容

- 水温
- りん酸態りん
- 硝酸態窒素
- 亜硝酸態窒素
- 残留塩素
- PH
- 周辺の環境



調査結果の共有

地域学（笠岡高校）の中で河川調査を行った。【2025.11.8調査】

物質 \ 川	A	B	C	D	E	2020
りん酸態りん (mg/L)	00.5	0.1	0,2	0,05	0,05	0.05*
硝酸態窒素 (mg/L)	2	2	1	1	1	0.5~1*
亜硝酸態窒素 (mg/L)	0.01	0.005	0,05	0,02	0,02	0.005~0.02*
残留塩素(mg/L)	0.2	0.2	0,1	0,1	0,1	0.1~1*
水温(°C)	24	23	22	23	25	15
pH	7	7	7	6	6	6.9

*は2020年の調査結果がないため、基準値を表記

調査場所の周辺環境

周辺の環境



- CとDの川には、橋や民家が近くにあったためか、ペットボトルが流れていた。
- 川にいた魚は、汚れた水でも生息できる魚（クロダイ、コイなど）がほとんどだった。
- 放置されている船が目立った。

調査結果からの考察

- 調査結果より、地点B、Cの川のりん酸態りんの数値が高い原因に生活排水の影響が考えられる。
- りん酸態りんの数値が高いため生物に悪影響があると考えられる。
- 河川の水質には大きな問題はなく、いままでの保護活動の成果が出ていると考えられる。

今後に向けて

水質は、環境中の多くの影響の結果であり、原因を何か一つに特定することは難しい。また調査地点、採水深度、採水方法によっても変わってしまうことから、例えば、

- 調査地点（川の河口（汽水域）中流（淡水域下限））
- 調査項目（浮遊懸濁物（濁り）の項目の追加）
- 採水日時（潮汐や天候（調査前数日間））
- 採水方法（表層水、中層水、底層水）
- 採水場所（右岸、左岸、中央、水深）
- 浮遊懸濁物の測定方法

などについても検討したい。

今後に向けて

今回調べた項目以外の物質についても今後調査をし、
河川の水質低下の原因をより明確にしたい。

また、より正確に知りたい情報を取得できる調査方法
やカブトガニの生息環境に影響の大きい
調査項目を継続して考えていきたい。



資料制作

田中 貴和子

藤川 礼夢

前川 幸成

鈴木 佑奈

西島 颯人